

高知県商工団体連合会 NO.1195(58-2)

〒780-8035 高知市河ノ瀬町33

TEL088-832-4838 FAX088-832-3126

Eメール kosityoren@citrus.ocn.ne.jp

ホームページ <http://kosityoren.jp>

このニュースはホームページでもご覧になれます

高商連ニュース

県連 & 県共済会総会での発言(要旨)

6月7日に開かれた高知県連(県連)&県共済会総会での活動交流での発言(要旨)を紹介します。



森昭英
県共済会
理事長

理事長になって16年。コロナで延期していた県共済会バスツアーを14年ぶりに昨年行いました。前回と同じマイントピア別子に行きました。バーベキューの肉も大変おいしく予想以上の追加が出てうれしい悲鳴でした(財政的に)。電子ピアンも持参し余興の準備もしていききました。中村民商の橋崎事務局長も盛り上げてくれました。事故もなく楽しい一日となりました。16年間、大変お世話になりました。(今総会で理事長を退任されました)



中村秀子
県婦協会長

高知民商婦人部は藤原婦人部長を中心に記帳学習会に取り組んでいます。参加しやすいようにと午前、午後、夜の3パターンで開いています。自主記帳を推進する縁の下の力持ちの役割を婦人部が果たしています。婦人部の地道な活



山崎純一
高知民商
青年部長

5月17日に県連青年対策部会と香美郡民商青年部と合同で経営交流会とバーベキュー(BBQ)を行いました。経営交流会は1階駐車場で、BBQは2階で行いました。経営交流会は11人の参加でした。経営交流会では仕事を始めたきっかけ、今後の抱負などを参加者全員で交流しました。BBQは50人目標でしたが24人とちょっと少ない参加者でした。みんなで肉を焼き、食べ、飲んで語らい楽しく交流しました。今後も青年対策部会と協力しながら活動していきます。



橋崎律子
中村民商
事務局長

今年の春の運動DVDで中村民商の消費税意見書採択の取り組みが紹介されました。役員会で相談している様子、共産党四万十市議団と懇談している様子などが紹介されました。船口会長は「衆議院選挙であれだけ多くの政党が消費税減税を訴え



高橋旦
須崎民商
会長

須崎の独自活動として、記帳教室(記帳カフェ)を毎月、須崎市と四万十町で開催しています。事務局は「参加者がいなくても必ず開く」と執念を持って取り組んでいます。税務調査がありましたが、民商方針通りに戦うことができそうです。(須崎はオンライン参加でしたが、インターネット状況が不安定で途中で発言が途切れました)



川島憲彦
安芸民商
会長

会員は54人に減り、活動しているのも役員のみという状況です。が、読者拡大では全商連総会に向けては4人の拡大をしました。役員は頑張っています。日常的な活動参加を会員にまで広げることが最大の課題です。消費税減税意見書は

2回目の挑戦で採択することができました。1回目は6対6、議長反対で不採択になりましたが、2回目に8対6で採択されました。
25年安芸市会議員をしていきます。8月30日投票で選挙が戦われます。資材高騰・資材不足で業者、会員が苦しんでいる時に共産党の議席を減らすわけにはいきません。ぜひ皆さんの支援をお願いします。



村田敦子
南国民商
共済会
理事長

毎月読者を拡大しようとして今年5月で210ヶ月読者連続拡大中です。婦人部の力が大きいです。コロナ禍でも婦人部は毎月役員会を開き誕生日プレゼント訪問をしてきました。278ヶ月毎月開催しています。23年を超えました。コロナ禍以降、集団での健康診断が取り組めていませんが、春と秋に期間を決めて健診を呼びかけています。この1年で49人が健診を受けています。共済の連続拡大も349か月、30年近くになっています。共済会員率96%、配偶者加入率47%、加入者総数は会員数の245%につながっています。7月には



上岡孝雄
仁淀川民商
会長

コロナでレクリエーションを自粛していましたが昨年からは再開しています。5月からは忘年会1回、バーベキュー交流会を3回行っています。1回目は読者、元会員も参加し15人でした。会員がバーベキュー用品を寄贈してくれ、回数を重ねるにしたがってバーベキューの段取り、火おこしも上手になりました。4月に行った3回目には「申告おつかれ会」として開催。日高村の自動車屋の息子さんが初参加してくれました。今回は近隣民商にも参加を呼び掛けたと思います。



山崎龍太郎
香美郡民商
会長

コロナで延期にしていた50周年祝賀会を、昨年11月に55周年祝賀会として行いました。参加者が少なくどうなることかと案じていましたが、森川実行委員長を中心に声掛けを強め100人超の



福永達也
高知民商
副会長

参加者で開催することができました。参加者集めでは苦労しましたが、呼びかければ応じてくれる会員もまだまだ多いことを再確認し、その後の拡大運動の力にしました。全商連総会では読者の「総会増勢表彰」対象業者表彰を達成することができました。
高知民商が自主記帳を強調し始めたのは、倉敷民商弾圧事件がきっかけです。その後、税務相談停止命令制度ができ、さらに、自主記帳・自主申告が大切になっていきました。自主申告を会員に浸透させるにはどうしたらよいか議論しました。まず、自分の商売を知るために記帳しましょう。そして帳簿に基づいて申告しようという会員に呼びかけました。今年の申告では約7割の会員が申告書の下書きを自分でして申告仕上会に参加しました。残り3割の会員も前年の申告書参考に、わからないところで仕上げています。